



## 多面的機能支払活動組織 「新田地区農村環境保全組合」で ほたるまつりが開催されました！

平成30年6月30日（土）、栗原市志波姫八樟地内で、多面的機能支払活動組織「新田地区農村環境保全組合」による「ほたるまつり」が開催されました。当日は大人52名、子ども39名、計91名が参加しました。

新田地区農村環境保全組合では、平成19年度に組織を設立した当初からヘイケボタルの復活を目標に掲げており、毎年地区内の「ホタル水路」の清掃活動やホタルの放虫、ホタルの勉強会を行うなど、地域一丸となってホタルの生態系保全活動に尽力してきました。代表の高橋さんは開会の挨拶で、「11年間の活動が実を結び、現在ではホタル水路のあちらこちらでホタルの飛び交う姿が見られるようになった。今日は『ほたるまつり』の記念すべき第1回目。これまでみなさんにお手伝いいただいた感謝の気持ちをこめて開催します」と、ヘイケボタル復活の喜びを表しました。

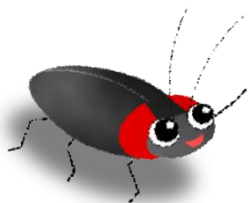


### ほたるまつり 第1部 午後7時30分～（会場：横峰集会所）

登米市東和町米川の「鱒淵ゲンジボタル保存会」の代表を務める小野寺さんを講師に招き、ホタルにまつわる講話をいただきました。登米市東和町を流れる鱒淵川の周辺には、昔から多くのゲンジボタルが生息しており、宮城県内のホタルの名所としても知られています。戦後に普及した農薬や除草剤等の影響で川や水路の水が汚染され、一時その数は激減したものの、同保存会を設立し地域全体で保全活動に取り組んだことで、かつてのホタルの賑わいを取り戻しました。また、昭和54年には「東和町ゲンジボタル生息地」として国の天然記念物に指定されました。小野寺さんは講話の中で、「ホタルの体は小さいが、かけがえのない命であることを忘れないで欲しい」と命の大切さを説いたほか、「今日ここへ来て驚いたことは、地域にたくさんの子どもたちがおり、ホタルを守る活動に参加していること。このような活動が子どもたちへ受け継がれている地域は発展していくと思う」と、新田地区の活動を評しました。また、昭和54年に東和町を舞台に制作されたホタルの映画も鑑賞し、ホタルの生態や環境配慮の意義について理解を深めました。



ホタルについて学んだ後は、子どもたちに向けてホタルのクイズ大会が行われました。子どもたちは小野寺さんの話をしっかり聞いていたので、積極的に手を上げ、皆次々と正解していきました。正解した子どもたちには、賞品として文房具が贈られました。



みんなすご〜い!



**ほたるまつり 第2部 午後8時20分〜（会場：ホタル水路沿い市道）**

第2部は待ちに待ったホタルの鑑賞会！もちろん会場はホタル水路です。子どもたちにはあらかじめハイケボタルの成虫とヒメタニシが配られ、ハイケボタルはホタル水路に、ヒメタニシはホタル水路沿いのヒメタニシ養殖用の田んぼに放虫されました（ヒメタニシは、来年のハイケボタルの幼虫の餌になります）。

あたり一面暗闇に包まれる中、チカチカと可愛らしい光が四方八方に舞い飛ぶ幻想的な光景に、参加者は頬を緩めながらこれまでの活動の成果を噛みしめている様子でした。



**組織概要**  
 組織名：新田地区農村環境保全組合  
 取組事業：多面的機能支払交付金  
 取組開始：H19～  
 面積：139.8ha  
 構成員：農業者79名、非農業者70名、12団体

栗原市

活動位置



カメラマンの腕が悪く、現場の様子を写真でお伝えできないのが残念です…(>\_<)

